

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
2【かかわる】	⑬【地域づくり】 郷土の美しい自然、伝統行事・郷土芸能、温かい人のつながりのある社会、安全なまちを願い、地域づくりにかかわる。	総 合 学校行事

【題材】 修学旅行（6年生）、ふるさと体験学習（5年生）

【対象】 修学旅行（発信）→盛岡市民、ふるさと体験学習（理解）→田野畑小5年児童

【実践の概要・詳細】

平成23年3月11日の「東北地方太平洋沖地震」により発生した大津波は、本村に人的にも物的にも大きな被害をもたらした。村の復興基本計画によると、「この震災を糧として、魅力ある新たな田野畑村に生まれ変わる『未来にむけた復興』という視点で取り組むこと」が謳われている。また、復興基本計画で打ち出された基本方針の1つに「地域振興」が掲げられており、その具体的な取り組み内容として、「教育・人材育成の充実」＜中期的な取り組み（概ね5年以内）＞がある。

「教育・人材育成の充実」では、(1)総合的な防災・復興教育の実践 (2)復興にむけた男女共同参画等の推進 (3)地域リーダーの育成 という3つの方針で取り組んでいくことが明言されている。

昨年度は、総合的な防災・復興教育の実践および復興にむけた男女共同参画等の推進という観点から、「田野畑村 教育の日のつどい」における復興子ども会議を核とした田野畑村の復興にかかわる全校の取り組みの事例について報告をした。

今年度は、6年生の修学旅行および5年生のふるさと体験学習における活動に目を向けて、復興教育の実践に取り組んだ。

＜修学旅行（6年生）＞

①自主研修活動の決定（総合）

人と関わる

（テーマ「田野畑村の宣伝大使になろう！」）

②テーマの追求（総合）

- ・役場職員を講師に田野畑村の理解学習
- ・情報（資料等）からの紹介内容の決定

③表現の工夫（総合）

- ・自作の名刺の作成
- ・会話の練習（右の写真）

④自主研修活動（学校行事）

⑤活動のまとめと反省（国語・総合）



職員を相手に活動の練習  
（田野畑村のよさを伝える）



村の特徴を知る活動  
（酪農について知る）

＜ふるさと体験学習（5年生）＞

①体験活動内容の決定（総合）

田野畑村の6地区の特徴を捉える

沼袋→酪農体験、机→自然体験

机・羅賀・島越→復興現場見学（被災場所の復興）

田野畑・浜岩泉→復興現場見学（高台移転地造成）

②活動準備（総合）

- ・調査活動（資料収集等）
- ・しおり作成

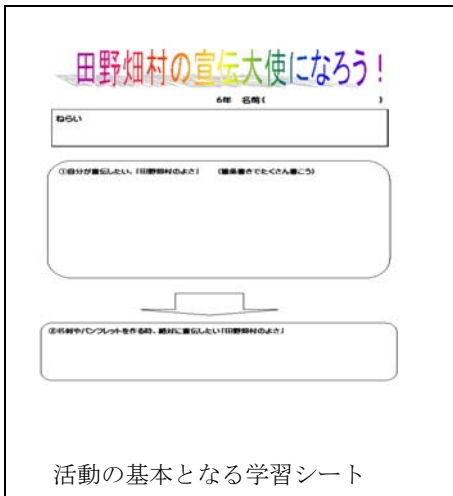
③体験活動（学校行事）

- ・田野畑村の特徴を知る活動
- ・田野畑村の復興状況を知る活動

④活動のまとめと反省（総合）

【 展 開 】

＜実践① 修学旅行（6年生）＞



活動の基本となる学習シート

「田野畑村の宣伝大使になろう！」というテーマのもと、総合的な学習の時間を主として使い、取り組みを始めた。子どもたちは田野畑村のよさとして、北山崎・三陸鉄道・伝統芸能・海産物などを挙げていた。

その後、田野畑村の紹介の内容を決めて、名刺づくりと名刺を渡す時の話し方の練習を行った。先生方を盛岡で出会う相手に想定して積極的に練習するとともに、アドバイスを真摯に受け止め話し方等の修正をして、修学旅行で行われる自主研修活動に向けて取り組んだ。

修学旅行2日目、盛岡市内で課題別グループでの自主研修活動において、緊張しながらも

積極的に行動して、出会った人に名刺を渡し「田野畑村のよさ」を伝えた。

出会った方々は、子どもたちの話を真剣に受け止めてくれた。また、本村の現状を聞かれたり子どもたちを激励してくれたりして、これからの田野畑村を担う本校の児童にとって爽りの多い活動となった。

エッセイ 岩手公園の散策で（盛岡で出会った方より）

好天の一日をゆっくり楽しもうと、岩手公園の散策に出かけた。初夏らしい暑い日差しが照りつける日である。公園に足を運んだその第一歩、そこに3人の小学生が私を待ち受けていたように近づいた。「何かインタビューでも？」と問いかけた。手にしていた名刺をおもむろに差し出した。ん？、小学生なのに名刺？と、少々驚いたがすぐ応じて受け取った。（中略）まさしく三陸海岸にきて欲しいとの願いが込められている。PRをしっかり聞いてあげた。上手にPRしていたのが印象深かった。（後略）



活動を伝える学級通信

＜実践② ふるさと体験学習（5年生）＞

東日本大震災後、2年間行っていなかったふるさと体験学習を行った。ふるさと体験学習のねらいの一つとして「復興の現状を知り、今後の自分たちの活動を考える。」を掲げた。

政策推進課の佐々木氏を講師に、宿泊施設内において映像と資料をもとに田野畑村の復興状況についてお話をいただき、その後に津波により被災した場所および住宅の移転地等について現地を見学しながら詳しい説明を受けた。

子どもたちは、復興の取り組みの速さに驚くとともに、自分たちが村の復興のために何をしたらよいか、個々に考えをもったようであった。

＜まとめ＞

今年度は復興を意識して、学校行事である修学旅行とふるさと体験学習を中心に、総合的な学習の時間を絡めながら活動に取り組んでみた。これから、復興教育を継続させていくためには、5年生のふるさと体験学習と6年生の修学旅行における自主研修活動を密接につなげるための手立てを考えていく必要があると考えている。

